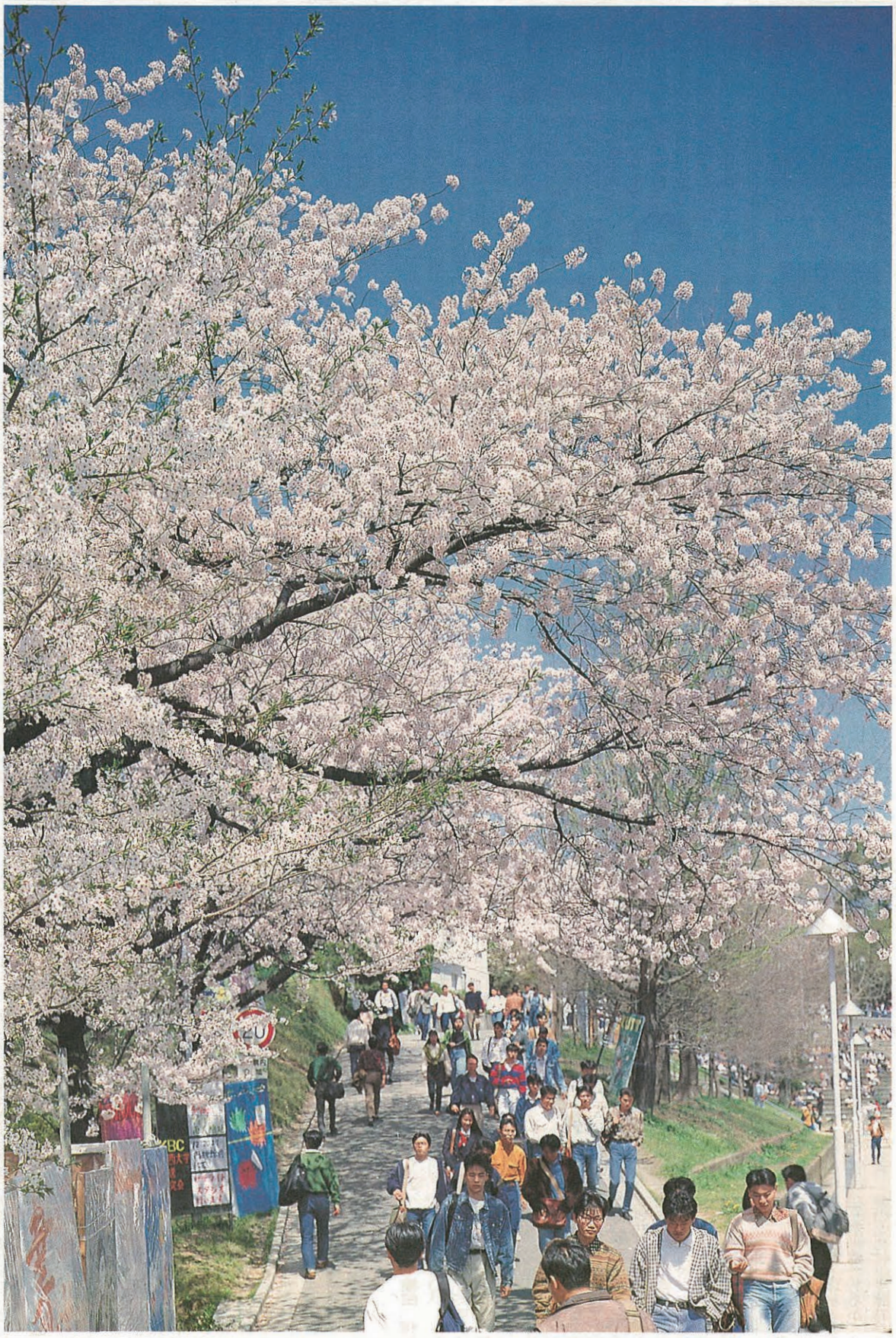
第 217 号
平成5年（1993年）4月3日

関西大学通信

THE KANSAI UNIVERSITY NEWS

関西大学広報委員会
大阪府吹田市山手町3-3-35



花のキャンパスには、すばらしい出会いがある

迎えることば

学長 大西昭男

ご入学おめでとう。

こうして諸君は関西大学を選びとり、関西大学は諸君を選びとった。この出会いをお互いに大事にしていきたい。

これからの四年間に諸君はめまぐるしいほどに幾つもの出会いを持つことだろう。願わくはその一つひとつが価値ある出会いであってもらいたい。出会いは向こうからやって来ることもあれば、こちらから求めて選びとることもある。さて、どんなすばらしい出会いを持つことになるか。

さて、こうして踏み入って来られた青春という奇蹟の時空にあっては、一日が必ずしも二十四時間でなく、一年が三百六十五日でもない。その一刻一瞬がそのまま永遠であるとも言える。諸君には不思議な自由が与えられている。それが青春の先ず第一の奇蹟である。そして第二に、ふと目にすること耳にすることが、血や肉となり、諸君の内部世界をとてつもなく広大なものにしていってくれる。つい見のがしたこと、聞きすごしたことさえもが、実は諸君の意識のアンテナにとらえられて、諸君の内部へとインプットされているということだ。どんなに精巧な人工知能のセンサーよりも、諸君の意識・無意識のセンサーは鋭敏なのだ。諸君は自分の内なる感受能力を信頼してよい。そしてその感受力を全方位に向かって開放するべきだ。

さてしかし、諸君が自分自身を信頼し、青春の奇蹟に何もかも任せてしまってよいということにはならない。「少年老い易く学成り難し」と、古人もいうように、奇蹟の時間は、あっというまに過ぎ去ってしまう。何となくやって来る出会いや触れ合いにまかせておくだけでなく、また自分自身からも踏み出して選びとるべきでもある。「先ず書を求めよ、友を求めよ、そして師を求めよ」と先人も言っておられる。ひろびろとして日本有数の規模と機能を誇る総合図書館は、開架図書だけでも十五万冊、百六十万余の蔵書を有している。出来れば日参し本を手にとってパラパラと頁を繰っているうちに、思わずひき入れられる一冊の本を一日も早く見つけ出すことだ。そして「友を選ばば書を読みて、六分の侠気、四分の熱」と与謝野鉄幹の詩にあるように、すぐれた友を選ぶこと。そして、むつかしげな学問を講じておられる先生方に、どんどん問いかけていくことだ。そして、ここのところだけは先生の説を突き抜けた、と自負できるほどに学問に没入してみることだ。その過程において、必ずや良き師にもめぐり会えるはずだ。こちらにも諸君たちの熱意を迎えとる用意はある。

では、お互いのその熱意を大事にしていこうではないか。

HEADLINE

2面 新任教員の紹介
3面 新入生歓迎特別行事
4・5・6面 特集「漢簡研究国際シンポジウム'92」を終えて
7面 学術交流計画決まる
8面 「大坂画壇」に寄せて

千里眼

時（節）は四月、春爛漫の季節である。頭の働きが一番活発になるのは秋ではなく一年中で実は春なのである▼出世魚というのがある。ブリはツバス、ハマチ、メジロ、ブリ。ボラではオドコ、イナ、ボラ、トドと成長に従って名前が変わる。とどの詰まりという語源はボラの一生での最後の名前に由来するとのことである▼話によればインド哲学では人間の一生を遊ぶ時期、勉学の時期、養育と労働の時期、家庭を越えた放浪の旅への時期と分けて考えていると聞く▼人の遺伝子を司る染色体は全部で四六個（2n）、二組分であるが、その一組分二三個（n）は父親から、他の二三個（n）は母親からのものである。子供が出来るときの細胞は、減数分裂といって男（精子）、女（卵子）共に二三個のものが合体し、親の四六個と同じ数になるが、四六個が二三個つまり両親から受けついだものの半分を失うときの組合せは父からのもの、母からのものと計算すると何と2^{23}種類（約八四〇万）にもなる。SCE、キアズマなどの要因も加わるが、人は一卵生双生児以外同じ遺伝子をもつ人がいないわけで、同じ指紋の人がなく、各人百人百様の所以でもある▼とどのつまり、個人は天涯唯一のものである。心して自分の人生で、今の時期なにをすべきかを自覚し、与えられた自分の個性を精いっぱいに伸ばされんことを。（T・T）

大学人事

四月一日付で次の先生方が昇任された。

▼法学部▲

教授　市原　靖久

助教授　大和　正史

▼文学部▲

同　葛原　力三

教授　井上　泰山

同　高橋　隆博

助教授　芝田　豊彦

同　山本　卓

同　吉中　孝志

▼商学部▲

教授　羽鳥　敬彦

同　明神　信夫

▼社会学部▲

教授　片桐　新自

▼工学部▲

教授　石原　勲

助教授　阿波　啓造

同　新井　泰彦

同　田村　進

同　中林　安雄

専任講師　井上平八郎

同　伊藤　淳志

同　泉井　純一

同　倉田　隆征

同　山北　秀樹

新任教員紹介

四月一日から次の先生方が本学に就任された。

法学部 教授　植木　哲

昭和四十三年香川県生まれ。神戸大学大学院法学研究科修士課程修了。滋賀医科大学教授を経て来任。ドイツに留学、ドイツ語で書かれた論文も数多い。専門は民法。業績は災害法、信用法、医事法と幅広く、しかも、それぞれ大著を出しておられる。趣味はテニス。

法学部 教授　小林　弘二

昭和三十三年京都大学法学部を卒業。翌年アジア経済研究所に入所し中国問題を専攻。香港大学、スタンフォード大学へそれぞれ二年間留学。平成元年アジア経済研究所主幹となり、本年三月に至った。中国革命と都市の解放、「満州移民の村」「対話と断絶」など著書多数。長身痩軀、視野広く、教育にも意欲的な人である。

法学部 助教授　今西　康人

昭和五十一年関西大学法学部卒。神戸大学大学院法学研究科博士課程前期・後期課程修了後、県立神戸商科大学助教授を経て四月から母校の教壇に。専攻は民法。契約締結上の過失責任、消費者取引、診療契約の三分野にわたり、基礎的研究から社会的テーマに至るまで、取り組まれている。趣味は、スポーツと映画鑑賞。

法学部 助教授　齋藤　彰

昭和五十四年神戸大学法学部卒業。会社勤めの後、五十六年同大学院法学研究科へ進学。六十二年には英国留学の経験をもつ。兵庫大学専任講師を経て着任。専門は、国際私法・国際取引法。国際動産売買法を中心のテーマとし、分野の枠にとらわれない幅広い研究を進められている。

文学部 教授　高橋　誠一

昭和二十年生まれ。京都大学大学院博士課程を経て、滋賀大学講師、教授を歴任。本学とは五十二年以来、非常勤講師として連続出講願ってきた御縁がある。地理学、特に歴史地理学を専門とされ、古代の山城、条里制、国府など造詣が深い。人文地理学の要職にある。美声の持主で、講義も明快、歌はお上手である。

文学部 助教授　近藤　昌夫

昭和三十一年北海道生まれ。五十四年札幌大学卒業、六十年一橋大学大学院商学研究科博士課程単位取得。交通経済学、なかでも米語学科を卒業後、大阪市立大学大学院経営学研究科へ進み、同大学院博士課程修了。ドイツに留学、帰国後昭和五十六年大阪市立大学商学部助手に就任。以後講師、教授として公企業研究、特に「交通権」という視点からの研究に精力的に取り組まれてきた。

商学部 助教授　高橋　望

昭和三十一年岡山県生まれ。五十四年同志社大学商学部卒業。六十年一橋大学大学院商学研究科博士課程単位取得。専門は都市社会学、といってもその研究範囲は広く、シカゴ学派の画像計測である。速度分布の計測の研究で可視化情報学会から論文賞を受賞。趣味は読書、植物栽培、歴史など。

工学部 教授　大石　敏雄

昭和四十三年京都大学工学部建築学科卒業、同大学院博士課程後期修了。同時に学位を取得して、本学に着任。専門は建築意匠論、院在学中に既に数篇の論文を発表されていたほか、日本建築学会の設計競技での全国入選や、一級建築士の資格の取得などを果たされている。趣味はスキー、旅行。

工学部 助手　橋寺　知子

昭和六十三年関西大学工学部建築学科卒業、同大学院博士課程後期修了。専攻は海外でも高く評価されている。

工学部 助手　安原　裕紀

群馬県前橋市出身。大阪大学理学部を経て、この春、同大学院博士課程単位修得後、本学に着任。大学院の専攻は細胞生理学。学位取得も間近とか。松中昭一教授のもとで植物を材料にして細胞機能工学の研究を展開される。読書のほか、登山、オフロードバイク、カヌーツーリング等野外活動も大好き。一方、料理の腕前も一流とのこと。

拳法部に「ホップ賞」

学位取得

大島鎌吉スポーツ文化賞

○(商学部教授)　吉信　肇

一九九二年度、全日本学生拳法選手権、全国選抜大学選手権、全西国選手権を制覇した拳法部は、第五回（一九九二年度）大島鎌吉スポーツ文化賞「ホップ賞」を受賞した。同賞は、ロサンゼルス五輪（一九八三・一年）三段跳びの銅メダリストで本学OB故大島鎌吉氏を記念して、本学体育OB会が一九八八年に創設したもので、国際スポーツ文化賞トリプル賞、日本スポーツ文化賞（ジャンプ賞）、関西学生スポーツ文化賞（ステップ賞）、関西大学スポーツ文化賞（ホップ賞）がある。

各賞贈呈式は三月十三日の午後三時から本学百周年記念会館において行われた。

京都大学　博士（経済学）

「古典派貿易論の展開」

授与年月日は、平成六年一月二十四日。

けがや事故がもし起きたら

学生教育研究災害傷害保険

「学生教育研究災害傷害保険」は、教育研究活動中の事故による傷害に対する救済制度で、本学では、事故が起きた場合に保険金の給付が受けられるよう、金学生を対象として一括加入している。

保険の内容

(1)担保範囲

この保険制度は、①正課中（講義、実験、実技等）、②学校行事中（入学式、卒業式、オリエンテーション、学園祭等）、③課外活動中（大学の認めた学内学生団体の管理下で行う活動）、④キャンパス内での事故発生中、の傷害事故に対して適用される。

(2)保険金の種類

事故が起きたときに給付される保険金には、①死亡保険金、②後遺障害保険金、③医療保険金、がある。

事故が起きたときの手続

事故が起きてから、保険金の給付を受けるまでの手続としては、①「事故報告」及び②「保険金請求」の二つが必要であるが、まず学部事務室（課外活動中は学生部）へ事故報告し、指示を受けること。

なお、この保険制度に関する約款や手続については、学部事務室を通じ配布している「学生教育研究災害傷害保険のしおり」等を参照されたい。

また、不明な点があれば、学生部（厚生課・第一学生課）へ相談すること。（学生部）

「ひと」の権利　地球と権利

人権問題と大学

キャンパス情報

『人権問題と大学』『「ひと」の権利』

冊子紹介

新入生の諸君は入学式の後、「人権問題と大学」および「「ひと」の権利」という二つの冊子を手にされたことと思う。これらは、本学が人権啓発と差別撤廃に取り組んできた長い努力の積み重ねの上に作成されたものである。

「人権問題と大学」は、少し専門的ではあるが、現在の人権侵害の諸問題を体系的にまとめたものである。もう一方の冊子「「ひと」の権利」は、「地球」の権利」という副題が示すように、人権侵害のさまざまな問題が地球環境を破壊し、われわれの生存すらも危うくするものであるという基本的認識のもとに編集されている。また現代の多様にわたる人権侵害の諸問題、諸事象をなるべく平易に、写真等を折り込んで視覚的にも理解できるよう工夫されている。

これらの冊子は、学内外において多数の人権啓発冊子として高く評価されており、学生諸君が多角的つまるスタイルをもった人権問題を考えるきっかけとしてぜひ一読してほしい。

すべての人々が平等でなければならないことは言うまでもない。しかし、抽象的・観念的にわかっているだけでは、まず差別の実態を知り、その根深さを本当に認識することが必要であるが、その学習のために学生諸君がこれらを少しでも理解するためにもない。しかし、抽象的・観念的にわかっているだけでは、まず差別の実態を知り、その根深さを本当に認識することが必要であるが、その学習のために学生諸君がこれらの冊子を活用することを願ってやまない。

（人権問題委員会委員長・丹治　昭義）

奨学金制度の説明会

希望する学生は出席を

入学式に続き、四月六日（火）まで新入生指導行事が実施されるが、その中で奨学金制度についての説明会が開催されるので、希望する学生諸君は出席願たい。

▼奨学金制度説明会について

説明会では、日本育英会、関西大学奨学金並びに地方自治体・財団奨学金制度の概括的な内容と提出書類について説明を行い、出願書類を配布する。

奨学金はそれぞれに奨学の目的があり、出願資格と基準が定められている。奨学金の種類によってその表現は異なるが、「勉学の意欲がありながら、経済的理由により修学に生活費の支弁が困難になったときに備えて、「短期貸付金」制度（貸付限度額は、原則として三万円以内）を設けている。

貸付を希望するときは学生部（厚生課・第二学生課）で相談されたい。

▼日本育英会採用候補者

高等学校学中に日本育英会大学第一種奨学生採用候補者に決定している学生諸君は「進学届」を四月六日（火）までに学生部（厚生課、第二学生課）へ提出すること。（学生部）

女子学生を対象に

就職合宿セミナー

高岳館で２回に分けて

昨年に引続き、オーストラリア国立大学の学生のための「日本語・日本文化事前研修」を二月十四日から三月二十三日まで実施した。今回は、財団法人・日本国際教育協会からの支援を受け共催で開催した。

このプログラムは、学生達が今年の四月から日本の大学で一年間留学するために必要な日本語能力の強化や日本の大学生との交流、大学生活の事前体験を目的としている。

オーストラリア国立大生に日本語・日本文化事前研修

今回参加した学生は十八人（男子三人、女子十五人）で、それぞれ西大学・東北大学・千葉大学・学習院大学・慶応義塾大学・南山大学・津田塾大学・京都外国語大学・昭和女子大学・橋大学大阪大学・大阪・京都・神戸・奈良の見学や本学学生との交流、茶道、華道、日本文化の集中授業の他、

「漢簡研究国際シンポジウム'92」を終えて

東西学術研究所 大庭 脩所長 文学 尾崎 實教授に聞く

聞き手　広報委員会副委員長　鍛治邦雄
　　広報委員会副委員長　山本雄二
（インタビュー・平成 4 年12月21日）

一般にはなじみが薄いかもしれないが、中国・漢の時代に書かれ、残された木片が歴史家の注目を集めている。「漢簡」と呼ばれるその木片が、歴史書に現れない事実をわれわれに教えてくれるらである。そうした漢簡の発掘状況の報告および研究の交流を目的に昨年十二月、本学百周年記念館において「漢簡研究国際シンポジウム92」が開催された。予想されたとおり大盛況であった。そこで広報委員会は早速、研究の状況とシンポジウムの意義について、わが国の漢簡研究の第一人者で、このシンポジウムのプロデューサーでもある大庭脩・東西学術研究所長と通訳として参加された尾崎實・文学部教授にお話しをうかがった。（山本）

「漢簡」とは何か

広報　十二月十二日と十三日の両日にわたって行われました「漢簡研究国際シンポジウム92」について今日はお伺いしたいと思いますが、その前に、まず「漢簡」というものが一体何なのか私たちはほとんど知りません。簡単に説明して頂ければありがたいのですが。

大庭　漢簡の「漢」は、漢という時代を指します。後の「簡」は木簡ですね。木簡というのは日本でも出ておりまして、皆さん日本の木簡について新聞等で多少お読みになったり見たりされていると思いますけれども、コミュニケーションの手段として文字を書くための材料があるいは竹であるる場合、日本では木簡というわけです。正確には竹簡という方がかんむりですから竹を指しますので、木簡ということは、それはまさしく木に竹を接いだ言葉で、本来は正確ではない。したがって、簡は竹簡ですけれども木の場合はどういうかというと木牘（もくとく）と言います。ですから、中国では、日本で木簡というのを簡牘と言っている場合が多いわけですね。しかし、要するに木簡と言っておけばよろしい。

広報　いつ頃からいつ頃まで使われていたのですか。

大庭　いつまで使ったかと言えば木に文字はいまでも書くわけです。現在でも使っておりますので、木簡は現在まで使っておると言えるわけです。それから、古くはどこかというと、中国の場合ですと殷の甲骨文字の中に冊（さく）という字があります。冊という字はつまり木をつなぎ合わせた字ですから、したがって、甲骨文字に冊があるから殷の時代から使っていたと考えてよろしいわけです。

それから、もう一つ、それじゃあ、中国や東アジア独特かというと、そんなことはないのでローマにも木簡がありますし、ヨーロッパにもありますし、エジプトにもあります。ですから世界中、木に文字を書いておった。ただ、それは残っていない。ローマの場合は多少残っていますけれども、多くの場合それは残っていない。残っているのは石であるとか、あるいは金属に彫ったものとか、それからパピルスあるいは羊皮紙というふうなもののために、木に文字を書いたということは一般に忘れられておりますけれども、実際は使っていた。ただ、残っているものは貴重なことが書いてあるのに対して、木の方は消耗的、臨時的だからその姿を保っているのだというふうに考えたらいいわけです。例えば、ブック、プーフそれからリーブル、全部これは元は木に起因する言葉ですね。そのようなわけで、要するにコミュニケーションの手段として文字を書きつけたもの、それが木簡です。

大庭脩東西学術研究所長

広報　特に漢の時代に注目するのはどうしてですか。

大庭　中国において一番出土量が多いのが漢の時代の木簡なので、それで漢簡というのが特別な研究対象になっているということです。

実は、戦国時代、紀元前四四四年に造られた墓から出たもの、これは竹簡ですが、これが一番古い。それから中国で発掘された木簡では唐のものもあります。そのほか西夏時代の木簡もあります。ただ集中的にあるのは、やはり漢簡である。漢が終わりまして魏、晋の晋ですね。大体その頃になると紙と木とが入れ替わりつつあるんですね。その意味で漢簡というのは、やはり注目に値するということです。

広報　どんな形をしているのでしょうか。

大庭　用途に応じて色々な形があります。大きさで一番スタンダードなのは漢の一尺、つまり約二十三センチです。

広報　儀礼用ということになりますか。

大庭　いや、儀礼用でもなくて、それはやはり扱いにくい。三尺というのは大体律令を書くんですね。軍の命令を伝えるのは二尺なんです。これが檄というのですね。檄を飛ばすの檄です。三尺の場合は槧（ざん）と言います。

何が書いてあるか

広報　書かれているのは法律とか命令とか、そのほかにどんなことが書かれているんでしょうか。

大庭　その質問にはちょっと答えにくいな、何でもあるんですわ（笑）。

広報　文学とか…。

大庭　ええ、文学もあります。つまり本も出て来ますし。それから日常の命令もありますし、帳簿がありますね、つまり物を支給した帳簿、あるいは借金の証文もありますし、借金を返してないものの取り調べもあるしね。とにかく何でもあると言わにゃしょうがないね。

広報　これはお役所で書かれたものですか。

大庭　一応はそうなんです。多いはそうなんです。しかし、それは出てくる場所が問題でしてね。出土する場所が今度のシンポジウムの中心になった塩出簡ですが、これは西の方の匈奴に対する防衛線ですので、そこにおる備部隊の日常生活のことがみな出てくるわけです。その日常生活の中には防衛責任の問題もありますから、例えば敵が現れたときに、どういうふうに信号を送るか、というようなことの決まりもなんかも出てきております。

今度、第四セッションでやりましたのが、それ以外のところから出てきたもので、これだけでは十分じゃないのですけれども、多くの場合墓から出たものです。それを言い換えますと、副葬品として入っている木簡は二千ありまして、一つは副葬品のリストですね、何を入れたかというリスト。もう一つは死です。それからこく値かですけれども文書がある、そういうような分類になります。

広報　その本というのは、どういう内容の…。

大庭　これまたあらゆる種類があると言わなければならんのであって、儒家の本もあれば道家の本もあるし、兵家、医書、そのほかも薬方書等々ということです。

薬方書というのはフィールドからも出てます。それはやはり戦争ですから、病人の記録もあります。誰が病気になった、治ったとか、そういう記録もありますし、病人が出たので医者に診せるとかいう命令があったり、誰でも病気をするわけですから当然薬も要るわけで、だから薬方書が出てくるというのは自然だということになりますね。

書いたのは役人

広報　文字を書くというと、相当のインテリだと思うんですけど、どういう人が主に…。

大庭　一応文字を知っているのは官吏ということになってますね。

広報　兵隊が自分で書くということはないわけですね。

大庭　それはまず無理でしょう。

広報　その指導者というか、責任者が書くわけですね。

大庭　そうですね。文字を習いたければ官吏に習えということが言われてますからね。官吏になるということは文字が分かる、書けるというのが資格のうちに入りますね。

広報　そうすると、いつでしたか読売新聞の記事では、庶民の生活が分かるようなことともちょっと書いてあったんですが、そういう意味では必ずしも庶民の生活記録というわけではないんですね。

大庭　ただ、兵隊なんていうのは庶民ですからね。これが防衛線で一日になんか食料を貰っておったとか、それからその兵隊の家族がおりましてね、その兵隊というか下士官の家族が自分のために衣類を届けに行くという許可を求めたり、あるいは関所がありまして、そこを南光のために通るときの身分証明のような、そういうものもやはり庶民のものですから。何と申しましても、そこに書き留められた記録もあります。普通の史記とか漢書とかいうような歴史書の中では分からないような庶民の生活が分かるということはいえると思いますね。

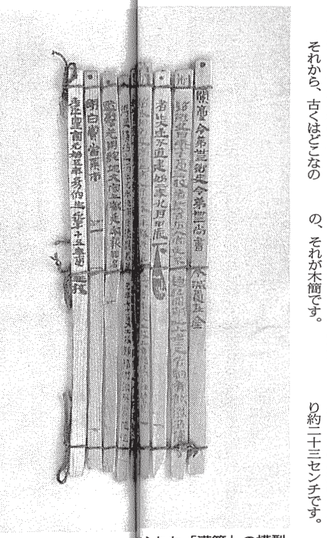
広報　なるほど。それがそういう防衛線のところから現在発掘されるということは、その町はもう埋もれてしまったわけですか。

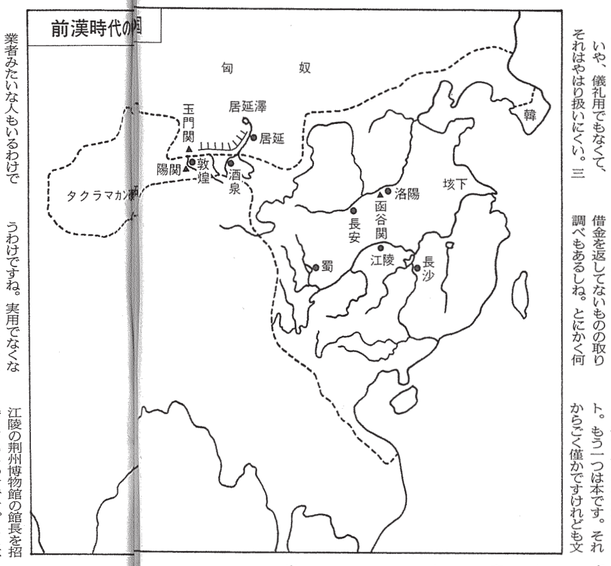
大庭　そうですね。要するに匈奴の圧力が減ったとか、あるいは軍備的に縮小する必要が起こったとかいうようなことで、それを放棄して引き揚げてくるわけですね。

広報　貴重な記録もあったでしょうに、それは持って帰らなくて置いて帰ってしまった。

大庭　出てきたものには一手ありましてね。一つは捨てたものですね。今度の発表の中で使われた言葉では「文化のゴミ」と言いましたわね（笑）。その文化のゴミがあるわけですね。

それからもう一つは、司令官の文書室がありまして、このところから出たものは大事な記録です。しかし、その皆を廃棄したときに、それを一緒に捨てるわけですから、そういう意味においてはやはり廃棄物ですね。皆と一緒に廃棄した。要するものだったら持って行ったでしょうから。大事なもの…つまり持って行ったものに何があるかというと、これは分からないのでね（笑）。


簾（すだれ）のようにられた「漢簡」の模型



紙はなかったか

広報　そうすると、その時代というのは、紙のような軽くて便利なものは、ほとんどなくてほとんど木簡に記録するということだったのでしょうか。

大庭　紙はね、いままでは後漢の蔡倫が発明したということになっておりますし、教科書もそう言っておりますけど、蔡倫以前の紙が大分発掘されておるんです。ただ、それに文字を書いたかどうかということで、古いもので言うと西暦紀元前三世紀の終わりぐらいの紙もあるんです。ただし、それは包み紙なんですね。文字を書くための紙があったのかなかったのかというところが非常に難しいところで、紙を文字を書くための材料にしたのはいつからかということは、逆にいまかからなくなってきた。ただ、掘り出したものに字が書いてあればいいんですが、そういうはちょっとまだ今のところはっきりしないですね。

ただ、紙がないから木に書いたとは言えないのです。しかし、主たる文字を書く材料は木であったということは言えると思います。

広報　その文字は墨で書いてあるんですか。

大庭　そうですね、文字は墨ですね。

広報　現在の墨と同じものと考えていいんですか。

大庭　ちょっと違うと思います。これはやはり大分粘っこい墨ですね。墨の分析がまだないと言ってますね。…ただ今の水気が多い墨では、これは書けませんね。それから、今の穂先の長い筆でも書けませんね。穂先が短くて相当弾く筆で濃い墨を使わないとだめなんでしょうね。

広報　簾（すだれ）のようにして綴じてあるんですけれども、初めから、そういう簾状になったものに書いていくんですか。それとも細い一本、一本に書いてから簾状にして保管するということですか。

大庭　両説あります。両方のケースがあると思うんです。例えば、これは書いてから綴じたから字の上に紐がかかっているんですね。ものによっては綴じる場所を初めから開けているのがあります。ですから、あるところまで字がくるとポンと飛んで一字分ないしは二字分くらいブランクがあって、そしてまた次を書いて行って文章が続いているというのがあります。この模型でもどっちが先か分からないわね。そのつもりで書いて、後で綴じたかも分からんし…それはどっちとも一離しいですけどね。（木簡の本を示して）これは文字の間が開いているでしょう。

広報　開いてますね。それが沢山になってきますと、保管の方ういうものをぶら下げておったようです。

広報　なぜは材質が木ですから、丸めて整理するにしてもそこに膨大な量になると思うんですが。

大庭　なりますね。

広報　それを整理というか保管し、まと今流に言えば検索して、まと時に応じて使わなければいけないということもあるでしょうけれども、そういう専門の今で言えば司書のような方がおられたんでしょうか。

大庭　おります。司書というか書業者みたいな人もいるわけですか。

大庭　それは自分で削っておったと思います。多くの場合はね。

広報　前線なんかへ行くと砂漠みたいなところもあるでしょう。その場合は持って行くわけですか。

大庭　それは運んで行きます。縄と木簡の何も書いてないやつを送っていきます。ただ、書いて、書き違えると削れるんですね。そのためのナイフを武器として持っておるんです。それは書の刀「書刀（しょとう）」というのです。書刀と当然書くための筆を持っておる。そこで漢の時代の下級官吏は「刀筆の吏（とうひつのり）」というわけですね。実用でなくなってくる。それはつまり逆に言うと紙が主体になっているからですね。

広報　なるほど。にもかかわらず、それが服飾品として重宝されるというのは、やはり何かシンボル的なものがあったわけですか。

大庭　うーん、シンボル的なことがあったのと、もう一つはあれで何かが切って食うたんやねね（笑）。そういうことがあるみたいやけどね。これは僕、責任持たんよ（笑）。

広報　いろいろ使えるのですね。

大庭　いろいろ使っていたようですよ。

研究、新しい時代へ

居延・敦煌の発掘が契機

広報　法が問題になるんですけれども、そのまま積み重ねていったのか、あるいはそれを丸めての巻のようにして、それを一巻、二巻というふうにして保管したのでしょうか。

大庭　巻いていたと思います。巻いて横の紐付けに置いて、そこに何々という札が付いておるんです。名札というか、その内容を書いた札、それは特別なる名前がありまして 楬（けつ）「けつ」というのです。

これは日本の木簡では付札と言うんですけれども、要するにいまの言葉で言うとタッグです。飛行機に乗るときに付けるでしょう。あれと同じ。ただ、それを木で作って札が開けてあるというもので、それ記官ですね。それから、一番大事なのは、やはり官庁ですけれども、宮廷なんかはその専門の人間がおりましてね。

例えば、法律なんかは番号が付いてます、何令何番というふうに。ですから、それを番号順に置いているわけですね、間違いないように。宮廷というか中央政府ではそれがちゃんと整理がついておるわけですけれども、それが地方になると整理のついているところもあるし、必要なところを部分的に書いている、抜き書きしておるとか、そういう場合があったりして、そらやっぱり整理の悪いやつもおったでしょうね（笑）。

広報　木を削って簡を作る専門のというのです。

大庭　あまり偉いやつには言わんのですけどね（笑）。それはつまりナイフと筆とを持っておるということですよ。

広報　要するにインテリというか武闘派でないというか…。

大庭　いゃ、そういうことでもないですよ。武闘派でもやはり一定の資格の者は書けますからね。そのナイフがやがて実用でなくなってきてアクセサリーになります。唐の時代になると、官吏がみな短いナイフを身に付けておるわけですね。そうなると、品質もよくなりまして、そのよいものは正倉院にあります。それはつまり服飾品としてしまったんです。

広報　要するにインテリというか武闘派でないというか…。

大庭　いゃ、そういうことでもないですよ。武闘派でもやはり一定の資格の者は書けますからね。そのナイフがやがて実用でなくなってきてアクセサリーになります。唐の時代になると、官吏がみな短いナイフを身に付けておるわけですね。そうなると、品質もよくなりまして、そのよいものは正倉院にあります。それはつまり服飾品としてしまったんです。

広報　発掘されたものの整理とか保管はどこの国がどのような形で行っているのですか。

大庭　いわゆる中国の解放以後は全部中国本土になりまして、中国の学者が整理をしております。

それから、それ以前、今世紀の前半は多く発掘したのは欧州の西域探検と申しますか、中央アジアの探検隊が掘り出しまして、掘り出したものは例えばイギリスとか、あるいはスウェーデンとかというようなところに保管されておりました。ただスウェーデンが掘った大きなもの、約一万点出てきた居延漢簡というのは、これは現在台北にあります。それがどんな経過だったんでしょうか。

大庭　経過はね、要するに日本軍が入って来たので北京大学で調べていたのをまとめて香港に移しまして、香港からアメリカへ預けるわけですね。そしてアメリカからそれを台湾に返還したという経過ですね、簡単に言えば。

日本での研究史

広報　日本での漢簡研究の歴史といいますか、いつ頃から始まってどういう成果を…。

大庭　そうですね。一つはね、一九一四年に日本に亡命していた中国の学者、羅振玉、王国維という二人ですが、その羅振玉、王国維が京都で初めて漢文（中国語）で敦煌の漢簡の研究をした。それ以前はフランスの学者がフランス語で発表していたのです。ですから、これが日本における研究のいわば最初ですね。その後は一九五二年から京都大学の人文科学研究所で森鹿三先生を中心に組織的な研究が行われた。そのほかに東京辺りでも研究をやられておったことは間違いないのですよ。研究されておったんですけれども、組織的な研究をやったということが大きいですね。その研究は、実は公式には二年ぐらいで終わったんです。

広報　二年ですか。

大庭　正直言って科研費（文部省科学研究費）が切れたんですわ（笑）。だけど、それは言うんとこ（笑）。それでまた違う名目で研究会は続いたんですけれども、その後、森先生のところでずーっと少数の人がやっておりました。

広報　日本での研究ですが、例えば、現物そのものが手に入らないと思うんですけれども、資料はどういう形で…。

大庭　資料はね、初めは釈文があったんです。釈文というのは、つまり、木簡に書いてある文字、それが主として隷書ですが、隷書を今の文字に直したもの、それが出版されて、それによってやりました。その本が入って来て、結局、森さんの研究会が始まったわけですね。そのうちに写真を台湾が出したんです。台湾版の写真ができて、それから大陸で写真版ができて、大体一九五七年頃から写真による研究が可能になりました。現物はないので写真で専らやったということです。

広報　中国とか台北などなかでの整理とか、それから釈文化、解読はどれぐらい進んでいるんでしょうか。

大庭　台北でやっているのは、現物をもう一度再検討してます。それはアメリカから帰って再調査を始めたんです。そのときには実は私のアドバイスによって赤外線テレビを使って見えるのです。実際に数も従来発表されたよりは多いというようなことが台北では分かっております。

甘肅省の方では、大きな発掘が一九七三、七四年に居延漢簡の発掘がありまして 敦煌漢簡の方は写真も去年出ました。それから居延漢簡の方は釈文の一部が出まして、写真版は来年出ることになっております。ですから、私は九〇年代になって七〇年代に出た漢簡の釈文に接することができるようになったので、そこでこれから新しい時代に入るとみて、そのためにシンポジウムを開いたということになります。

第6面に続く

「漢簡研究国際シンポジウム'92」を終えて

東西学術研究所

大庭 脩所長　文学部 尾崎 實教授に聞く

（続き）

シンポジウムのあと行われた討論会（百周年記念会館国際会議室で）

漢簡研究の交流史

広報　いま出ましたシンポジウム開催に至る経過について、もう少しお話を伺いたいのですが、大庭先生のご経験も含めて、漢簡研究の交流史といいますか、どのようになっておりますか。

大庭　交流史の一番最初は、やはり七八年に森先生を団長にして、私が秘書長で大陸へ行ったときに漢簡の情報が入ってきたというか、それが割合最近の研究の始まりだと思います。そして、それから後はなかなか本が出ようんので、みんなイライラしておったわけですわ。ただ、大陸の方でも文革も終わってだんだん落ち着いてきたので、従来の居延の旧簡に関する研究がまず行われまして、それから発掘された新簡に関しても何人かの人が釈文を作るということになりました。去年、新簡の釈文をやったのは北京の中国文物研究所、それから中国社会科学院歴史研究所、それから甘粛省文物考古研究所、この三つの合同でやりました。それはまだ続いております。

広報　木簡の研究というのは、結局、その発掘された簡を見て、それぞれを解読するということが主になるわけですか。

大庭　いや、それがつまり基礎になるわけですね。

それが発表されて、今度は初めてみなが歴史資料として考えたわけです。というのは日本では情報がないわけですわね。その情報というのは、本はあるけれども、あるいは発掘報告はあるけれども、実際に発掘した人、あるいは実際に釈文をやった人に話を聞きたいというものでやったんです。漢簡を使って漢の歴史を研究しているのは一人も発表しない、という大きな原則を立てました。ですから、今回日本人は誰も発表してないのです。日本に研究者がおらんのかというと、それはおります。おりますけれども日本人は出なかった。なぜなら自分で掘ってないから、自分で釈文をやってないから。

広報　そうすると、シンポジウムに参加され、報告された九名の中国・台湾の方は、いわば枝晃先生（京大名誉教授）もいらっしゃいますね。森先生は来ずっとっておられる。私もやっている藤枝晃先生（京大名誉教授）も何か。

大庭　それはやっぱり研究の経験が長いということでしょうね。森先生は来ずっとっておられる。私もやっている藤枝晃先生（京大名誉教授）も

広報　この漢簡研究において、日本が貢献できることというのは、いま言われた赤外線の技術だとか、あるいはランドクルーザーとか、そのほかにも何か。

大庭　砂漠をランドクルーザーで走りまして、やっぱり日本の車はよろしいな（笑）。

広報　この漢簡研究において、日本が貢献できることというのは、いま言われた赤外線の技術だとか、あるいはランドクルーザーとか、そのほかにも何か。

大庭　それはやっぱり研究の経験が長いということでしょうね。森先生は来ずっとっておられる。私もやっている藤枝晃先生（京大名誉教授）も

広報　木簡の研究というのは、結局、その発掘された簡を見て、それぞれを解読するということが主になるわけですか。

大庭　いや、それがつまり基礎になるわけですね。

それが発表されて、今度は初めてみなが歴史資料として

尾崎實文学部教授

使えるようになる。そこは一段階あると考えていただくのがよろしいかと思うんです。それで、結局その現物を持っておるところが、ごく少数の人間で釈文を作るという、このことがまず基礎作業になって、そして発表されて初めて他のものが使えるようになる。発表するまでの段階と、発表してからの段階というのは違うと思うんですね。

ぼつぼつ出始めたから、そこのテーニング・ポイントとして、今度のシンポジウムを発掘して、そしてその発掘されたものを解読し、釈文化する、その専門家がわけですね。

大庭　そうです。実際にやった人間というわけですね。

広報　赤外線を使うと、どういうふうにはっきり分かるんですか。例えば、墨ではけている ようなところ、あるいは消えてしまっているようなところも…。

大庭　はい、出てきました。これは平城京でやっているわけです。赤外線テレビは日本の製品です。だから、私は結局、台湾へ行って何を思ったかというたら、日本の機械はよろしいな（笑）。それから甘粛省で走りまして、やっぱり日本の車はよろしいな（笑）。

広報　この漢簡研究において、日本が貢献できることというのは、いま言われた赤外線の技術だとか、あるいはランドクルーザーとか、そのほかにも何か。

大庭　それはやっぱり研究の経験が長いということでしょうね。森先生は来ずっとっておられる。私もやっている藤枝晃先生（京大名誉教授）も

広報　会場には随分多くの人が来ていらっしゃいましたが、どのぐらい集まりましたか。

盛況だったシンポ

大庭　あれね、席を三〇〇作ったんですが、ほとんど満席でしたね。そしてあの満席の状態が最後まで続いた。人は入れ変わったと思うんですけどね。ですから、随分多かったと思います。

広報　日本であれだけの方が漢簡の研究をされているというわけじゃないですね。

大庭　それはないね（笑）。あの主たるお客様はね。まずはどこへ呼び掛けたということになるわけですが、一つは日本の秦漢史研究会、もう一つは、どっちかというと日本木簡をやっている木簡学会ですね。それから書学書道史学会、つまり書学書家ですな。これの理論派ですね。それから、実際に自分で木簡の字を習っている方、そういう芸術家、書家、それが熱心に見えたようですね。あとは去年一緒に蘭州へ行った仲間とかね。

広報　少しシンポジウムの中身にも入らないといけないのですけれども、今回のシンポジウムで特に新しく報告されたトピックだとか、あるいは注目されるようなことで、どんなことがありましたか。

大庭　それはまず一番に、木簡が出てきた遺跡のスライドの写真があったことですね。これはみな初めて見たでしょう。

広報　それまではスライドすら、あまり…。

大庭　要するに考古遺跡という写真はありますけどね。あれだけ沢山のスライドを写した―あれ三〇枚くらいでしたかね―ことはなかったと思います。

それから、結果的には初世賓さんと李学勤さんとが漢の法律の木簡のことを話しました。つまり漢簡の中の漢律ですね。その話をしました。これはやっぱり皆さん非常に関心があったのではないかと思います。それから、情報としては台北でやっておられる研究の状況を、これは非常にきっちり報告してくださいましたので、皆さんよく分かられたのではないかと思います。

それから、敦煌の馬圈湾という場所ですが、実際にそこを掘った人がその話をしたわけですから、これもいわば生々しい話をしていたということになります。李学勤さんの江陵張家山の話はきれいに整理をしておられました。整理をしておるということは、一方からいうと、本当は専門家には分かっていた話なんですけど（笑）、そうでない方にも非常にうまく整理された話だったんでの知識がまとまったのではないかと思います。

それから、情報としては台北でやっておられる研究の状況を、これは非常にきっちり報告してくださいましたので、皆さんよく分かられたのではないかと思います。

それから、敦煌の馬圈湾という場所ですが、実際にそこを掘った人がその話をしたわけですから、これもいわば生々しい話をしていたということになります。李学勤さんの江陵張家山の話はきれいに整理をしておられました。

整理をしておるということは、一方からいうと、本当は専門家には分かっていた話なんですけど（笑）、そうでない方にも非常にうまく整理された話だったんでの知識がまとまったのではないかと思います。

それから、情報としては台北でやっておられる研究の状況を、これは非常にきっちり報告してくださいましたので、皆さんよく分かられたのではないかと思います。

それから、敦煌の馬圈湾という場所ですが、実際にそこを掘った人がその話をしたわけですから、これもいわば生々しい話をしていたということになります。李学勤さんの江陵張家山の話はきれいに整理をしておられました。

整理をしておるということは、一方からいうと、本当は専門家には分かっていた話なんですけど（笑）、そうでない方にも非常にうまく整理された話だったんでの知識がまとまったのではないかと思います。

広報　顔つなぎ…。

大庭　そう顔つなぎ。あとはもうそっちやってくれと（笑）、そういう目標があったんですけどね。適当にみな顔つなぎをしたんと違いますか。

広報　このたびは尾崎先生にも通訳していただいて、何かご感想はありませんか。

尾崎　私、今度お手伝いさせていただいたんですが、いやはや、とにかく素人、全くの門外漢が大庭先生のお手伝いをさせていただくということは大変なことなんで…まあ、私が担当させていただいた方の文章からにわか勉強を始めたわけなんですけれどもね。そのにわか勉強が本当に大変なことでした。形義田という先生がお書きになった文章を拝見しまして、とにかく私がいまだに経験したことのない変なことが書いてあるわけですね。どういう部分かと申しますとね、「皮を削いで柿（かき）にする」と書いてあるんですよ。なんぼ、私考えましても木簡と干柿の関係が分からなかったですよ。ところが、にわか勉強によりまして、皮を削ぐというのは木簡の表面、間違った部分を先ほどの刀筆の刀で削り取るようにしたんですね。その削いだものを何というかというと柿という字を書くというのです。ところが、その柿という字は実は食べる柿（かき）じゃなくて削り屑のことなんですね。

広報　柿（こけら）落としの柿ですね。

尾崎　柿（こけら）なんです。

大庭　実際は字が違うんです。「柿」と「柿」とは字が違うんです。いまは活字の関係で一緒にしてしまいますけれども、市という字がかきで、上から下へ抜けると柿になるんです。音は「ハイ」です。

広報　同じ音なんですか。

尾崎　肺臓の肺というのと同じです。そこで初めてその文章がどういう意味を現しているのかということが分かったわけです。あとはふんと五里霧中もいいようなもんです。

広報　そうすると通訳者の方が九人いらっしゃいましたが、みんな凄い経験をなさったわけですね。

尾崎　先生方、大変勉強なさっておられました。一時、総合図書館から木簡というタイトルの本はなくなったことがあるんですよ。だから、皆さん勉強のために一覧になったのでしょうし（笑）、それから会場へ行って話を聞こうという方も多分子備学習をされていたんじゃないでしょうか。

個人的なことになりますが、国際会議というのは、こんなふうにして運営するものであるというふうなことも含めて、改めて大庭先生のお力に、改めてというのは大変失礼ですけどね、驚きました。

広報　赤外線テレビと自動車と大庭先生ですね（笑）。

尾崎　その他いろろ気のついたこともあるんですけれども、参加者が大変多かったというお話ですけれども、レセプションの会場でも、私などがお会いしましたお方はほとんどが書家でした。呼び掛けになった大きな対象が三つあるとおっしゃってましたけれども、漢簡というものを支える基盤というのですかね、裾野とというのですかね、これは随分広いものなんですね。

広報　研究だけじゃないんですね。

尾崎　そうなんですね。それが分かりました。

広報　大会の成果を刊行するご予定はおありですか。

大庭　ございます。来年、この成果だけでなくに、発表しなかった人で論文を持って来た人もおりますし、さらに、来なくて論文だけよこした人もおりますし、それから、我々の研究会の連中の研究、それから索引ですね、インデックス、そういうものを入れて来年にはやりたいと思います。これは東西研の出版でやりたいと思っています。

広報　報告書が早く出来上がることを期待しています。

時間もそろそろまいりました。今日はお忙しいところありがとうございました。

派遣留学生を募集

平成5年度　ハワイ大学

平成6年度　オーストラリア国立大学

ハワイ　バーミンガム大学

夏期英語セミナー　参加者を募集

本学では、「国際交流の促進と充実」を教学の柱の一つに掲げ、世界各国の八大学と学術交流協定を結び、積極的に交流を行っている。

そのうち、既に学生交流を行っているのは、アメリカのジョージ・ワシントン大学、ベルギーのカトリック・ルーバン大学、中国の遼寧大学と東北工学院、オーストラリアのオーストラリア国立大学であるが、このたび、待ち望まれていたハワイ大学との交換留学が正式に決定し、第一期派遣留学生を募集することになった。

本学とハワイ大学とのつながりは深く、毎年開催されているハワイ夏期英語セミナーは、ハワイ大学ラビオラニ・コミュニティ・カレッジの全面的協力を得て実施されているもので、本学の学生交流の先駆的役割を果たしている。このハワイ大学と交換留学を開始することは、本学の国際交流の推進にとって大変有意義なことである。

また、今回は併せて平成六年度オーストラリア国立大学派遣留学生の募集も行う。

オーストラリアは学年暦が三月～十二月で他の協定校とは異なるため、十分な維備期間を設けるということから、このたびの春期募集とした。

オーストラリアは日本に対する関心が大変高く、日本語熱も盛んである。また、学年暦の関係から、日本人学生にとっては履修上の特別な措置を受けることなく留学できるというメリットがある。

両大学とも派遣期間は一年間（ハワイは平成五年八月から、オーストラリアは平成六年三月から）で、派遣人数は若干名、出願期間は平成五年四月五日～四月三十日。出願に当たっては、「TOEFLの得点（五二〇点以上）」等若干の条件がある。

なお、この派遣留学には本学の「学生留学規程」が適用され、留学期間の修業年限への算入や単位認定等、教学上の措置が講じられる。

詳細については、国際交流センター事務室で配布の募集要項と「留学の手引」を参照されたい。

（国際交流センター）

本学の協定校であるハワイ大学（アメリカ合衆国）とバーミンガム大学（イギリス）の全面的協力を得て開催している夏期英語セミナーを、今年度も下記のとおり実施する。

このセミナーは、夏休みを利用して、海外の大学で短期集中語学レッスンを受け、生きた英語を身につけるという二外国語としての英語教育もので、英語学習だけに留まらず、見学旅行や大学の寮生活を通して、外国の文化や歴史、生活習慣や考え方を参加者一人ひとりが自分の感性で受けとめ、直接肌で触れることができる。学生諸君にとっては、これからの時代に必要な国際感覚を育む最適の機会といえる。

授業内容は、TESL/Teaching English as a Second Language：第二外国語としての英語教育）あるいはEOU（The English for Overseas Students Unit：留学生に対する英語専門教育部門）の専任教員（バーミンガム）が担当し、十名程度の少人数クラスかれ、効率的な集中授業が行われる。両セミナーとも月曜日から金曜日まで終日（ハワイは午前九時から午後三時、バーミンガムは午前九時から午後四時半まで）授業を行う。ただし、週一回は午後の授業のない日がある。土・日曜日はオプショナル・アクティビティもしくはフリータイムで、この機会を利用して近郊にでかけ、生の英語に触れることも有意義であろう。

ハワイ夏期英語セミナーは今年で七年目、バーミンガムは大学夏期英語セミナーは三年目を迎え、修了者は既に四百名を超えている。この中から協定校への交換派遣留学生も数多く誕生しており、卒業後活躍している者も少なくない。学生諸君の積極的な参加を期待している。

なお、セミナーの修了者には一般教育の外国語科目の自由科目「海外語学実習」の二単位が与えられる。

問い合わせは国際交流センター事務室まで。

―募集概要―

【ハワイ夏期英語セミナー】

実施期間：平成五年七月二十日～八月十日

応募資格：本学学部学生

募集人員：六十名

申込書（所定用紙）

提出書類：申込書（所定用紙）

申込期間：平成五年四月二十日～五月七日

選考方法：第一次選考（聴解）

参加費用：約三十五万円

【バーミンガム大学夏期英語セミナー】

実施期間：平成五年七月二十日～八月十日

応募資格：本学学部学生

募集人員：三十名

申込書（所定用紙）

提出書類：申込書（所定用紙）

申込期間：平成五年五月十日～五月二十一日

選考方法：第一次選考（聴解）五月一十六日

第二次選考（面接）五月二十八日

参加費用：約六十五万円

応募資格：本学学部学生及び大学院学生

※両セミナーとも、参加費用

第二次選考（面接）五月十二日

五月十四日

参加費用：約三十五万円

平成5年度 学術交流計画決まる

「国際交流の促進と充実」の方針のもとに、学術交流協定校との教員派遣事業ならびに招へい教授等招へい事業の本年度計画で現在決定しているのは、別表の通りである。（国際交流センター）

平成5年度交換派遣研究者の派遣計画一覧

大学名	派遣研究者氏名・所属	滞在期間	滞在計画
遼寧大学	経済学部 石田 浩 教授	8月から10月（3か月）	(1)華南経済圏に関する研究を行う。 (2)大連経済開発区や図們江経済圏を視察し、中国南部と北部との経済開発戦略の比較研究を行う。
復旦大学	文学部 内田慶市 教授	9月1日から9月30日（1か月）	中文系・言語学研究所・地理歴史研究所において以下の講義（講演）を行い、学術交流を深める。 (1)日本における「官話」研究の現状と将来 (2)欧文資料による「官話」研究の可能性 (3)文化受容における宣教師の果たした役割―出版事業を中心に
	文学部 尾崎 實 教授	12月8日から1月6日（30日）	(1)歴史系において「外国資料から見た明治期・清代末期における日本語と中国語とのかかわりについて」のテーマで8コマ講義を行う。 (2)歴史系の呉傑教授・趙建民副教授と「日中両国における近代ヨーロッパ文化摂取の比較」のテーマで共同研究を行う。 (3)歴史系以外に所属する関係研究者と意見交換し学術交流を深める。
	社会学部 植條則夫 教授	2月8日から3月18日（39日）	(1)「中国における広告の制度と現状分析」及び「中国における公共広告の可能性に関する研究」についてマスコミ研究者と研究交流等を行う。 (2)中国のマスメディア全般の資料収集、雑誌「中国広告」編集者との交流。 (3)日本・アメリカ等のマスメディアの動向・広告戦略・広告表現に関して講義・講演を行う。
東北工学院	工学部 鈴木俊光 教授	8月から9月（1か月）	(1)専門分野（触媒工学及び資源化学）における教員・学生との情報交換を行う。 (2)中国の大学における専門分野（同上）の研究の現状について調査を行う。
	工学部 前田 裕 専任講師	9月1日から9月30日（1か月）	(1)専攻科目（電子回路工学）に関連する教員・学生との情報交換及び交流を行う。 (2)専攻科目（同上）に関連する学科のカリキュラム等の調査を行う。
	経済学部 元木 久 教授	6月から7月（2か月）	EC諸国と日本におけるサービス・情報経済化のプロセスの比較・検討を課題として、調査・データ収集及び関連研究者との研究交流を行う。
カトリック・ルーバン大学	工学部 越智光一 助教授	9月1日から10月31日（2か月）	エポキシ樹脂系繊維強化複合材料の高性能化に関して、以下の点について交流を図ると同時に調査を行う。 ①マトリックス樹脂の物性と複合材料の性能 ②マトリックス―繊維界面の性質の影響 ③複合材料の性能の評価法

平成5年度外国人招へい研究者の招へい計画一覧

資格	被招へい者の氏名・所属	国籍	受入れ機関	招へい期間	受入れ期間中の教育・研究活動計画
招へい研究員	Ottmar Ballweg（オットマー・バルベーク）マインツ大学 教授	ドイツ	法学部 竹下 賢 教授	9月20日から12月19日（91日間）	(1)「レトリックと法哲学」の分野において「レトリックと法文化」をテーマにした共同研究を行う。 (2)法学部や法学研究所での研究会や学生を対象とした講演を行う。 (3)学内他学部における研究会及び講演を行う。
招へい研究員	Helmut Kreuzer（ヘルムート・クロイツアー）ジーゲン大学 教授	ドイツ	文学部 小川 悟 教授	10月1日から11月30日（61日間）	(1)情報科学と文芸学との関連での共同研究を行う。 (2)テレビドラマやラジオドラマなどをテーマとした演習的な性格を持つ講義講演（方法論研究を含む）を行う。 (3)学部内及び全学を対象とした講演を行う。
招へい研究員	Catherine Jami（カトリーヌ・ジャミ）フランス国立科学研究センター 科学史科学認識論上級研究員	フランス	社会学部 橋本 敬造 教授	5月20日から7月20日（62日間）	(1)中国数学史・日本数学史等に関する分野で研究交流を行う。 (2)社会学部の主催で講演会（第1部・第2部）を行う。 (3)教員・院生対象の研究会及び学部生対象のセミナーを行う。 (4)学外研究者も含めた共同研究及び公開研究会を行う。
招へい研究員	Claus Günther（クラウス・ギュンター）カールスルーエ原子力研究センター 応用熱流体力学研究所研究員	ドイツ	工学部 小澤 守 助教授	8月22日から10月21日（61日間）	(1)二成分からなる水平流体層の自然対流に関する研究を行う。 (2)熱流動現象の数値シュミレーション手法等に関する学生対象の講演を行う。
招へい研究員	Makoto Yaguchi（マコト・ヤグチ）カナダ国立科学研究所研究員	カナダ	工学部 徳山 泰 教授	9月21日から11月20日（61日間）	(1)PseudomonasのProtein isolationとcharacterizationに関して共同研究を行う。 (2)「キシラナーゼのタンパク質工学」及び「カナダにおけるバイオテクノロジーの動向」に関する講演を行う。
招へい研究員	史 念 海（スー・ニェンハイ）陝西師範大学 教授 中国歴史地理研究所所長	中国	東西学術研究所 藤善 真澄 文学部教授	10月1日から11月30日（61日間）	(1)唐代史及び隋唐時代の長安に関する共同研究、日本の唐代史研究会会員との学術交流を行う。 (2)東西学術研究所及び文学部において各1回の講演を行う。 (3)大学院生対象のセミナーを開催する。

資格については、為替レートの変動により若干の変更もあり得る。（国際交流センター）

平成五年度在外研究員については、本紙第212号（平成四年十月号）で掲載済み。

図書館だより

耳鳥斎と大坂の戯画

—「大坂画壇」に寄せて—

中谷　伸生

江戸時代から大正時代に至る大坂（阪）の絵画を概観して、いったい大坂的な性格とは何か、と問うてみても、いっこうに明確な回答を得られない場合が多い。ただし、大坂の絵画でしばしば扱われた戯画の類には、これぞまさしく大坂の趣味だといってよいものが見出される。江戸時代に、滑稽な戯画を描く画家たちのことを、鳥羽絵師と呼んで、随分もてはやしたようだが、鳥羽絵という名称は、「鳥獣人物戯画」の作者にも擬せられた平安時代後期の鳥羽僧正覚猷に由来したもの、といわれる。すでに宝永年間（一七〇四—一〇）に、手足が異常に細長い化物のような人間が、滑稽なしぐさによって、世間を風刺する面白い戯画、つまり鳥羽絵が世間に広まっていた。夜道で、背後から照る月明りによって、目の前の地面に写る歪んだ影法師の形から、手足の長い奇妙な人間の姿を思いついたのが、鳥羽絵の誕生だという説もある。鳥羽絵といわれる戯画が大流行したきっかけは、享保五年（一七二〇）に、大坂の画家、大岡春トが出版した『画本手鑑』において、鳥羽絵の流布が言及されたことと、また同年に『鳥羽絵三国誌』（春トー作ともいわれるが筆者不明）、さらには、諺を戯画化した『軽筆鳥羽車』（筆者不明）などが出版されたことに遡る。やがて鳥羽絵は各地に広まった。大坂に対して江戸でも、秀抜な戯画を描いた鍬形蕙斎（北尾政美）らを輩出したが、こと鳥羽絵に関しては、これはやはり大坂のものであって、江戸ではあまり人気が出なかったという。ところで、江戸時代の大坂にあって、とりわけ戯画の世界で、独特の持ち味を示した画家としては、安永（一七七二—一七八〇）から天明年間（一七八一—一七八八）に活躍した耳鳥斎（にちょうさい）の名前を忘れるわけにはいかない。

耳鳥斎（生没年不詳）は、俗称松屋平三郎（かつて平兵衛、平三の説もあった）。没年は寛政五年（一七九三）あるいは享和年間（一八〇一—三）。もともと大坂の京町堀で酒造業を営む資産家であって、その後に、寂物屋か中物屋かは定かでないが、ともかく骨董商に転業した。この事実からも、美術品については、かなり眼の利く人物であった、と推測される。絵を描き始めたのは、骨董商になってからであろう。鳥羽僧正および江戸中期の画僧、古磵らの筆法を独学し、滑稽味あふれる画題を描いて、軽妙洒脱な味わいを本領とし、戯作や浄瑠璃にも手を染めるという、多芸の趣味人であった。大久保恒麿は、『上方趣味』（大正九年夏の巻）において、耳鳥斎は、遂には芝居にも出て、太夫号をつけて語りもし、さらに寛政十年（一七九八）には、浄曲の研究書『音曲波奈希奴幾』を著した、と指摘している。また、享和二年（一八〇二）刊の『浪華なまり』には、「耳鳥斎の戯画ハ鳥羽の僧正もはだしにて」と記されている。

もっとも、一筋縄ではゆかぬ耳鳥斎は、鳥羽絵師と呼ばれることが気に入らず、自分の絵を、手足の長い鳥羽絵と一緒にしてもらっては困る、と反骨ぶりを発揮した。確かに、耳鳥斎の戯画狂画では、人物の形姿は、いわゆる鳥羽絵の刺々しい身体描写とは異なって、ふくらみのある丸みを帯びて、手足は、簡素に略画化されながらも、だいたい自然観察に基づいている。たとえば、「十二ケ月図」（制作年不詳）では、節分、雛祭り、仲秋の名月といった季節の風俗や風物を戯画化した十二の場面が双幅に描かれる、いわゆる月暦戯画の体裁で、思わず笑いを誘う滑稽な人物描写が、耳鳥斎の本領をあますところなく見せつける。しかし、この画家独自のスタイルを誇る戯画に、わずかながらも、鳥羽絵の影響があることは、研究者たちによって、つとに夙めかされるところでもある。耳鳥斎は、『絵本水や空』（安永九年・一七八〇年）や『画本古鳥図賀比』（文化二年・一八〇五年）などの戯画の版本を世に出して、堅苦しい世間を笑い飛ばし、「世界是一つの大戯場」と喝破した。ところで、このように雲を摑むような画家のことを、あれこれ詮索する筆者もまた、ハハのんきだねぇ～。

（文学部助教授）

耳鳥斎「十二ケ月図」（江戸時代）紙本墨画淡彩より、右幅（部分）は三月、四月、五月、左幅（部分）は八月、九月、十月の各場面

◆平成五年度春季特別展「大坂画壇」

会期　第一期　四月五日（月）—四月三十日（金）
　　第二期　五月十七日（月）—六月十二日（土）
　　第三期　七月五日（月）—七月三十日（金）
　　（日曜・祝日を除く午前九時—午後五時）
会場　総合図書館一階展示室

◆記念講演会

演題　「大坂画壇」について
講師　文学部教授　山岡　泰造
日時　四月二十二日（木）午後一時—二時三十分
会場　図書館ホール
（ご来聴歓迎）

平成5年度「行事予定表」

◇…学務関係…◇

【学部】

4月1日　学年始　前期開始
3日　入学式　新入生指導行事期間（6日まで）
7日　前期授業開始
6月5日　本学昇格記念日
7月8日　前期授業終了
9日　補講日（10日まで）
10日　工学部前期末試験（20日まで）
12日　法・文・経済・商・社会学部前期末試験（20日まで）
21日　夏季休業（9月20日まで）
9月20日　前期終了
21日　後期開始　後期授業開始
11月4日　本学創立記念日
12月21日　冬季休業（6年1月7日まで）補講日（22日まで）
1月8日　授業再開
14日　後期授業終了
17日　法・文・経済・商・社会学部学年末試験（29日まで・入試終了後1日間）工学部学年末試験（29日まで・入試終了後2日間）
3月19日　卒業式
21日　春季休業（31日まで）
29日　在学生成績発表（30日まで）
31日　在学生履修届受付（4月1日まで）

【大学院】

学年終　後期終了
4月1日　学年始　前期開始
2日　在学生履修届受付（3月31日～2日）
6日　入学式　新入生オリエンテーション（8日まで）
7日　新入生履修届受付（8日まで）
10日　前期授業開始
27日　修士論文計画書（9月期修了）提出締切
6月5日　本学昇格記念日
7月19日　前期末試験（20日まで）
20日　前期授業終了
21日　夏季休業（9月20日まで）
23日　修士論文（9月期修了）提出締切
9月20日　前期終了
21日　後期開始　後期授業開始
30日　学位記（9月期修士）授与式
10月15日　修士論文計画書（3月期修了）提出締切
11月4日　本学創立記念日
12月21日　冬季休業（6年1月7日まで）
1月8日　授業再開
17日　文科系研究科修士論文（3月期修了）提出締切
31日　後期授業終了
2月10日　学年末試験（14日まで）
28日　工学研究科修士論文（3月期修了）提出締切
3月1日　修士論文口頭試問・公聴会（4日まで）
8日　博士課程前期課程修了者、博士課程後期課程単位修得者発表
23日　学位記（修士）授与式、単位修得証書授与式
24日　春季休業（31日まで）
29日　在学生成績発表（31日まで）
31日　学年終　後期終了

◇…厚生関係…◇

【奨学金】

4月3日　日本育英会・大阪府育英会進学届（予約採用）受付（6日まで。大阪府は20日まで）
　　在学届受付（20日まで）
5日　大阪府育英会奨学生の奨学金資格確認（6日まで）奨学金制度説明会（経済・商・工学部新入生）
6日　奨学金制度説明会（法・文・社会学部新入生及び第2部全学部全学年）
7日　日本育英会・関西大学奨学生出願書類受付（大学院在学採用8日まで）
中旬　日本育英会・関西大学奨学生出願書類受付
　　財団・大阪府育英会（学部4月募集）
　　日本育英会奨学生（大学院予約）採用手続
5月中旬　日本育英会奨学生（学部予約）採用手続
下旬　日本育英会奨学生の奨学金受領資格確認（25～28・31日）
6月中旬　日本育英会奨学生採用手続（大学院）
下旬　大阪府育英会奨学生の奨学金資格確認（24・25日）
7月上旬　日本育英会奨学生採用手続（学部）
中旬　関西大学奨学生採用手続（学部・大学院）
9月下旬　日本育英会・関西大学奨学生募集説明会
10月上旬　関西大学奨学生出願書類受付
同右　日本育英会・関西大学奨学金返還説明会（大学院予約採用・学部9月募集）
11月中旬　日本育英会・関西大学奨学金返還説明会
　　大阪府育英会奨学生の奨学金資格確認（18・19日）
下旬　日本育英会奨学生の奨学金受領資格確認（24～26・29～30日）日本育英会借用証書提出
12月中旬　関西大学奨学金（9月）採用手続
1月中旬　日本育英会奨学生（9月）採用手続・同（大学院予約）採用候補者決定手続
3月下旬　日本育英会・関西大学奨学生募集説明会
　　財団・大阪府育英会奨学生出願書類受付（新2～4年次生）
　　（注）平成5年度日本育英会・関西大学・財団・大阪府育英会奨学生募集説明会（新2～4年次生）は、5年3月末に実施済み。

【学生寮・下宿・「黒菱山の家」】

6月上旬　学生寮入寮希望者募集要項の公告
7月上旬　学生寮入寮出願の受付開始
9月上旬　入寮出願者の第1次（書類）選考
中旬　入寮出願者の第2次（面接）選考
12月上旬　学生寮入寮希望者（在学生）募集要項の公告
21日　「黒菱山の家」年末年始特別利用取扱期間（6年1月7日まで）
1月上旬　学生寮入寮出願者（在学生）の受付開始
中旬　2～4年次生の下宿紹介中止〈新入生の受入準備のため2月末日まで〉
3月上旬　入寮出願者の第1次（書類）選考
　　2～4年次生の下宿紹介開始
中旬　入寮出願者の第2次（面接）選考

◇…保健管理センター関係…◇

4月7日　学部第1部（1年次・4年次）男子学生・大学院男子学生健康診断（15日まで）…千里山体育館
19日　学部第1部（1年次・4年次）女子学生・大学院女子学生健康診断（22日まで）…千里山保健管理センター
5月11日　学部第2部男子学生健康診断（13日まで）…天六体育館
14日　学部第2部女子学生健康診断…天六第二診療所
6月7日　学部第1部（2年次・3年次）男子学生健康診断（18日まで）…千里山保健管理センター
21日　学部第1部（2年次・3年次）女子学生健康診断（25日まで）…千里山保健管理センター

◇…就職関係…◇

4月2日　「求職票」受付　第1部（法学部）
5日　同　右　第1部（経済学部・商学部）
6日　同　右　第1部（文学部・社会学部）
7日　産業研究会（12日まで）
9日　「求職票」受付　第2部（全学部）
10日　就職模擬試験（第1部文科系・第2部）
13日　就職セミナー（20日まで）
17日　就職模擬試験（工学部）
21日　公務員試験説明会（28日まで）

前田社会学部教授著『女が家を継ぐとき』図書館協会選定図書に

前田　卓
社会学部教授

社会学部教授・前田卓著『女が家を継ぐとき——東北・北関東に見る女性の相続——』（関西大学出版部刊行、定価一、三〇〇円）が、平成四年十二月二日付けで日本図書館協会の「選定図書」に選ばれた。

息子がいても、娘夫婦と同居したいという親が増えてきた。娘との同居を望むのが日本の親のホンネの姿であり、これを漫画『サザエさん』からヒントをえて「マスオさん」現象と呼ぶ。本書は、長男があっても長女の方が姉ならば、この姉に婿養子を迎えて家を継ぎ、弟である長男を婿に出す慣習が東北から北関東に江戸時代から明治の半ばまで存在したことを、実態調査で明らかにしたものである。

転換期にある〝現代家族〟を考えるとき、本書は大きな意義をもつであろう。

考古学等資料室を学内公開

本学考古学等資料室（簡文館内）は学生及び教職員を対象に毎月一回（ただし一・二・八・九月を除く）第三土曜日正午より午後四時まで学内公開を行っている。歴史学、考古学、民俗学、美術工芸資料など約二千三百点を展示しており、十六点の重要文化財も含まれている。今年度も引き続き学内公開を行うので、散策の折にでも立ち寄り、古代へのロマンにひたり、また眼下に大阪市内が一望できるので友人と将来の夢を語り合ってほしい。四月公開日は特別に十日（土）開室し、十七日（土）も開室する。資料室ニュースやパンフレットも用意している。歴史学、美術、史学等に関心のある新入生の見学を期待している。

▶編集後記◀

今春も数多くの新入生を桜咲くキャンパスに迎えた。大学の華やぐ時でもある。新入生諸君は、最初はとまどうことも多いことだろうが、良き師、良き友を得て実りある大学生活をおくってもらいたい。

大学は今や改革のさなかにあり、よりいっそうの教育内容の充実に向けて努力を重ねてきた。学生諸君は、本号で特集した「漢簡研究国際シンポジウム」のような最新の研究成果を知ることも、本学と提携している海外の大学で学ぶことも容易にできるようになった。

『関西大学通信』では、キャンパスでの、そうした様々な企画や催しをはじめ、大学改革に関する正確な内容など、すくなくとも知って損にはならない情報を随時紙面に掲載していく予定である。今後も愛読していただき、大学生活を送る上での一助にしていただければ幸いである。

（市川・徳山）